

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成23年度病害虫発生予察情報について

このことについて、発生予察注意報第1号を発表したので送付します。  
なお、病害虫防除所ホームページ（[www.jppn.ne.jp/kagoshima](http://www.jppn.ne.jp/kagoshima)）にも掲載しています。

## 病害虫発生予察 注意報第1号

- 1 農作物名 さとうきび
- 2 害虫名 イネヨトウ
- 3 発生地域 奄美地域
- 4 発生程度 多

### 5 発生状況及び注意報発令の根拠

- (1) 奄美地域の巡回調査では、イネヨトウ等の被害発生面積率が、5月は72%（平年86%、被害の発生程度「中」以上は20%）であったが、6月は87%（平年83%、被害の発生程度「中」以上は50%）であった（第1表）。
- (2) 6月30日に、奄美市笠利町（10地区）でイネヨトウの被害状況を調査した結果、芯枯れにより、被害程度の高いほ場が見られた。（写真1，2）

### 6 発生生態及び被害

- (1) 生育初期に被害を受けると芯枯れとなり、生育期では直接加害の他に赤腐病の発生や折損を招く要因ともなる。
- (2) 奄美地域では年4～5回発生し、春～秋季の1世代期間は40～50日である。
- (3) 産卵は葉鞘内側に20～50粒の卵塊で生みつけられ、ふ化した幼虫は集団で茎内部に食入し芯枯れをおこさせ、中齢以降になると他の茎に移動し、茎内部を数節にわたって暴食する。幼虫は5～6齢を経過し、茎内食入後約40日で老熟幼虫となり、植物体内から脱出し、主に枯れた葉鞘の内側で蛹化する。

### 7 防除上注意すべき事項

- (1) ほ場内及び周辺の除草を徹底する。
- (2) 多発すると防除が困難であることから、芯枯れを防止するため、幼虫食入初期に薬剤を散布する。
- (3) スミチオン乳剤（総使用回数4回以内）の場合、葉鞘内に薬液が浸透するよう丁寧に散布を行うとともに、1週間おきに2～3回散布することで防除効果が高まる。
- (4) 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。
- (5) 農薬の使用基準を遵守し、薬剤散布に当たっては飛散に十分注意して行う。

第1表 イネヨトウ等の被害発生面積率

		発生面積率 (%)	発生程度別面積率(%)				
			甚	多	中	少	無
奄美大島	5月	70	0	7	13	50	30
	6月	95	0	35	25	35	5
喜界島	5月	60	0	0	0	60	40
	6月	40	0	0	0	40	60
徳之島	5月	80	0	0	20	60	20
	6月	100	0	0	60	40	0
沖永良部島	5月	100	0	0	20	80	0
	6月	80	0	20	20	40	3
与論島	5月	60	20	0	20	20	40
	6月	100	0	0	67	33	0
地域全体	5月	72	2	4	14	52	28
	6月	87	0	21	29	37	13

注1) 調査場所は各島5か所の定点ほ場(大島は25ほ場を加えた。)

注2) 発生程度 甚:被害茎率 21%以上, 多:被害茎率 11~20%  
中:被害茎率 6~10%, 少:被害茎率 1~5%



写真1 芯枯れを起こしたさとうきび



写真2 坪枯れ被害を受けたほ場



写真3 イネヨトウ幼虫